1

今年度の結果と取り組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

良好な結果であった。

②書くこと

良好な結果であった。

③読むこと

概ね良好な結果であった。

4)言語事項

良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

良好な結果であった。

②短答式

良好な結果であった。

③記述式

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

全般的に無解答率は低く、前向きに取り組んでいました。 登場人物の心情や行動に注意して読んだり、言動の意味を 考えて内容を理解する問題[3二, 3三]、文章から適切な情報 を得て考えをまとめる問題[5一]は、相当数の生徒ができてい ました。

一方、手紙の書き方を理解して書く問題[9六]の正答率は低かったです。

国語B

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった。

②書くこと

良好な結果であった。

③読むこと

良好な結果であった。

④言語事項

(問題形式)

①選択式

良好な結果であった。

②短答式

③記述式

良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

全般的に無解答率は低く、前向きに取り組んでいました。 表現の工夫について自分の考えをもつ問題[3一、3二]や、 目的に応じて文章を要約する問題[2一]は、相当数の生徒が できていました。

一方、複数の資料を比較して読み、自分の考えを具体的に 書く問題[2三]の正答率が低かったです。

分析

本校生徒の平均正答率は、A, B問題とも大阪府・全国を上回る結果でした。設問毎では、A問題では一部の設問で全国の正答率を僅かに下回ってしまいましたが、B問題では全ての設問で全国の正答率を上回り、良好な結果でした。

無解答率も、B問題の一部の設問で僅かに全国値を上回ってしまいましたが、全体的に前向きに取り組み、 A. B問題ともほぼ半分の設問を全員が解答していました。

全国的な課題でもありますが、本校も文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことについて説明する際に、文章や資料から必要な情報を取り出してはいますが、それらを用いて伝えたい内容を適切に説明する点[B2三]に、課題があります。



算数·数学A (領域ごと) ①数と式 良好な結果であった。 ②図形 良好な結果であった。 3関数 良好な結果であった。 ④資料の活用 良好な結果であった。 (問題形式) ①選択式 良好な結果であった。 ②短答式 良好な結果であった。 ③記述式

(無解答率)

全般的に無解答率は低く、前向きに取り組んでいました。 比例の意味理解[1(1)]や1次式の計算[2(1)]、関数の意味 理解[9]や時間と距離の関係をグラフから読み取る問題[12(2)]は、相当数の生徒ができていました。

概ね良好な結果であった。

一方、図形に関しての証明問題〔8〕や、数量の関係を文字式に表わす問題[2(2)]の正答率は低かったです。

算数·数学B (領域ごと) ①数と式 良好な結果であった。 2 図形 良好な結果であった。 3関数 良好な結果であった。 ④資料の活用 良好な結果であった。 (問題形式) ①選択式 良好な結果であった。 ②短答式 良好な結果であった。 ③記述式 良好な結果であった。 (無解答率) 概ね良好な結果であった。

(その他)

全般的に無解答率は低く、前向きに取り組んでいました。 連続する数の和について問題場面における考察の対象を 明確に捉える問題[2(1)]は、相当数の生徒ができていまし た。

一方、事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明する問題[1(3)]や、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由をグラフを基に説明する問題[6(2)]の正答率は低かったです。

分析

本校生徒の平均正答率は、A, B問題とも大阪府・全国を上回る結果でした。設問毎では、A問題では一部の設問で全国の正答率を僅かに下回ってしまいましたが、B問題では全ての設問で全国の正答率を上回り、良好な結果でした。

無解答率は、A問題で一部の設問で僅かに全国値を上回ってしまいましたが、全体的に前向きに取り組み、A、B問題とも全員が解答していた問題もいくつかありました。。

全国的な課題でもありますが、本校も数量の関係を文字式で表す問題[A2(2)]や関数領域の問題[B1]に課題があります。また、記述式問題において資料の傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること[B5(2)]に課題があります。

過去7年分の数学Aに注目すると、正答率が0~40%、40~80%の生徒がともに減り、80~100%の生徒が伸びている。このことから、基礎・基本の定着がみられるようになってきています。今後、中学校3年間での伸びをより確たるものに出来るよう、小学校との連携を大切にしていきます。



理科

(領域ごと)

第1分野 ①物理的領域

良好な結果であった。

②化学的領域

良好な結果であった。

第2分野 ③生物的領域

良好な結果であった。

④地学的領域

概ね良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

良好な結果であった。

②短答式

概ね良好な結果であった。

③記述式

良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

全般的に無解答率は低く、前向きに取り組んでいました。

塩化ナトリウムを化学式で表す問題[1(1)]や、グラフを分析して解釈し温度と化学変化について読み取る問題[1(4)]、実験の結果を分析して解釈し、キウイフルーツがゼラチンを分解することを指摘する問題[7(2)]は、相当数の生徒ができていました。 一方、雲の成因についての他者の考えの誤っている点を指摘する問題[2(3)]の正答率は低かったです。

分析

本校生徒の平均正答率は、大阪府・全国を上回る結果でした。設問毎では、一部の設問で全国の正答率を僅かに下回ってしまいましたが、全体的に良好な結果でした。

無解答率は、一部の設問で僅かに全国値を上回ってしまいましたが、全体的に前向きに取り組み、ほぼ半分の設問を全員が解答していました。

全国的な課題でもありますが、本校も物理分野で仮説を証明するための実験とその結果に関する問題[6 (2)]、化学分野で実験結果を分析して解釈し、水と炭酸ナトリウムの混合物を判断する問題[1(2)]、地学分野で水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明する問題[2(3)]に課題があります。

3年前(H24年度)の調査より平均正答率が僅かに上昇し、全体的に良好な結果を示す中、問題形式では短答式問題、領域では地学的分野にやや弱さが見られます。



全体的な傾向についての分析

平成19年度から始まった本調査の全般的な平均正 答率は、初年度は僅かに全国値を下回りましたが、そ れ以降は全国値を上回り、特にここ数年右上がりで良 好な結果です。

教科別に見ると、平成22年度以降、国語B・数学B問題の平均正答率の伸び率がA問題に比べて高くなっています。

学力高位層と学力低位層についての分析

各教科の学力高位層は全般的に、毎年右上がりに 増えてきており、学力低位層はここ数年右下がりで減 ってきています。生徒たちが、諦めること無く、前向き に問題に取り組み、無答率がここ数年減ってきたこと が、学力低位層の減少に繋がっているものと思われ ます。

○●取り組み●○

学力向上に関する取り組み

本調査の傾向・課題を踏まえ、本校の学力向上に向けて、まず国語科と数学科において取り組み、他教科の取り組みに活かしていきます。

【国語科】

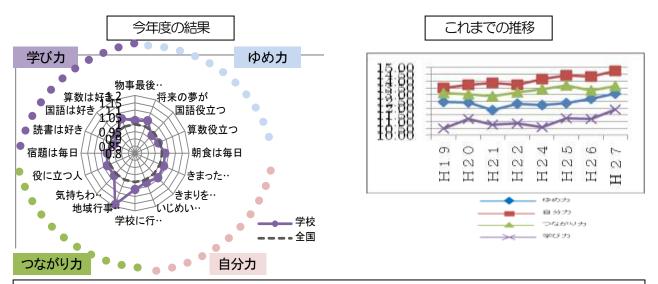
- ◎話合いの目的を踏まえた上で、観点に沿って発言を整理する授業
 - ■目的の達成を目指して話し合う力を身に付けるために、授業のなかで何について、いつまでに結論を出すのかを確認し、出された意見をどのような観点で整理すれば目的に合った結論を導くことができるのかなどを考えながら話合いを行うように指導していきたい。
- ◎資料を読んで要旨を捉えたり、必要な情報を正確に読み取ったりする授業
 - ■資料を読んで要旨を捉えたり、必要な情報を正確に読み取ったりする力を身に付けるために、目的に沿って 資料の内容を整理したり、自分の言葉で言い換えたりした際に、それらの内容が、使用した資料の内容を適切 に取り上げているかどうかを確認するように指導していきたい。
- ◎文章の構成や表現の仕方を捉えて自分の考えをもつ授業
 - ■文章の構成や表現の仕方を捉えて自分の考えをもつ力を身に付けるために、書き手が文章を書こうとした目的や意図、それに応じた表現の工夫について丁寧に分析するように指導していきたい。

【数学科】

- ◎証明の方針を立て、その方針に基づいて証明を進めていく授業
 - ■証明の方針を立てるために、結論を導くには何がわかればよいかを明らかにし、着目すべき図形を指摘したり、性質や関係を見いだしたりするため、話し合い活動を充実していきたい。
 - ■方針に基づいて証明を書くことができるようにするために、「証明の方針」と「証明」の対応や順番について考え、仮定から結論を導く推論の過程を的確に表現するため、教え合い活動を充実していきたい。
- ◎不確定な事象の起こりやすさを判断するために、試行を多数回繰り返して統計的確率を求めたり、樹形図などに整理して数学的確率を求めたりする活動を取り入れた授業
 - ■判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにするために、説明すべき事柄とその根拠の両方を示し、確率を用いて的確に説明出来るよう言語活動を充実していきたい。

☆学習のつまずきへの対応を図る上で、習熟度別指導を含む少人数指導等の活用により個に応じた指導の充実を図ることはもちろんのこと、一斉指導においても発問や板書・ICT機器を活用した視覚支援等、授業のユニバーサル化に努め授業改善を進めていきたい。

○●子どもたちに育みたい力●○



分析

- ◎これまでの推移のグラフで4つの力ともに緩やかな右上がりのグラフとなっており、昨年のデータよりも全項目で改善傾向が見られます。
- ◎今年度の結果を見ていきますと、
- ①「学びカ」の「国語の勉強は好きですか」「読書は好きですか」の設問に対しては昨年度に引き続き全国値を下回り、課題があります。「家で学校の宿題をしていますか」の設問は全国値を上回りました。
- ②「つながり力」の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」の設問が、昨年度からの改善が見られ全国値を上回り、全ての設問に対して全国値を上回りました。
- ③「自分力」では「いじめは、どんな理由があっても」いけないことだと思いますか」の設問に対し、昨年度からの 改善が見られ全国値を上回り、全ての設問に対して全国値を上回りました。
- ④「ゆめ力」では「国語・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つと思いますか」を肯定的に答えた生徒が依然全国値を下回り課題ですが、昨年度からの改善が見られ全国値に迫っています。

取り組み

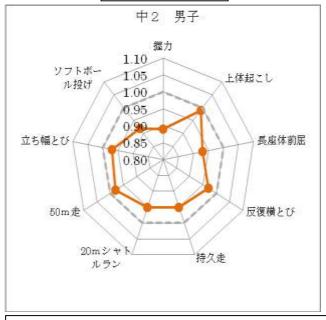
- ①「学びカ」では、「国語・数学」の学習への興味・関心を高めるため、ICT機器の活用や話し合い活動を充実させていきます。「読書」への興味・関心を高めるためには、各教科の授業で図書室を積極的に活用していくことや、朝読書の取り組みを充実させていきます。また、予習・復習や宿題など家庭学習の重要性を、早い段階から意識づけていきます。
- ②「つながり力」では、集団作りの取り組みを継続して行い、「リーダー育成」「仲間づくり」に取り組んで行きます。
- ③「自分力」では、規範意識の醸成を道徳の時間を中心に、取り組んでいきます。各家庭においても、睡眠時間やゆとりある生活習慣のために、「生活リズムの見直し」を図ることや、携帯電話等の使い方のマナーを教え、きまりを守らせることに取り組んでいただきますよう、お願いいたします。
- ④「ゆめ力」では、授業において今の学習と将来社会に出たときの関係性や、日常生活との関連づけを重視していきます。また、将来の夢や目標を持てるよう、2年生で実施する「職業体験学習」を含めたキャリア教育を、系統立てて総合学習等で取組む必要があることが見えてきました。

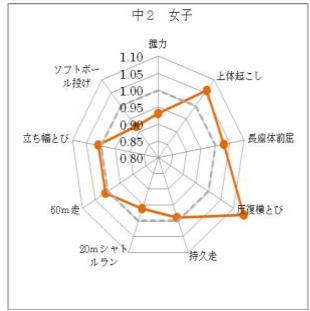
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子(中2)

女子 (中2)





分析

- ◎男女とも握力・ハンドボール(ソフトボール)投げ・20mシャトルランが全国値より下回っている。
- ◎男子の柔軟性は全国値を下回っているものの、同じ筋肉系でも上体起こし(筋持久力)は優れている。
- ◎男子がほぼ全項目で全国値を下回っているのに比べ、女子は半数の項目で全国値を上回っている。
- ◎女子の上体起こし・反復横とびが全国値を上回っているのは、夏休みなどの宿題にしている成果が出たと思われる。

取り組み

- ◎準備運動後の柔軟やトレーニング(学年毎に負荷・回数などを変える)を導入し、継続して実施する計画を立て る。
- ◎鉄棒・ボール投げ・縄跳び体感トレーニングなども導入する。
- ◎体作り運動で、運動の楽しさの中で、筋力アップや体力向上に取り組む。

	(各校)		(ブロック共通)
	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	魅力ある授業から、確かな学力 保障	授業を通じて、生徒が生涯にわたって健康 を保持増進できるようにする	自分力、つながり力を持っ て自立する子どもたち
平成26年度	・ジャンプアップ28の施策、事業の確認 行事の精選の継続 ・魅力ある授業づくりのため校 内授業研修の充実 ・校内授業研修の開催、ブロックの小学校へ呼びかけ、連携 をはかる ・授業のユニバーサル化の推進 ・シラバスで情報を発信し家庭 学習の定着、理解を図る ・学校教育活動の一環として行われる放課後学習会等における学習支援で学力を図る。	○スポーツテストの結果を分析し、学校として全国平均値まで上げることを目標として日頃からの補強に加えて、劣っている項目の克服にあてる。 ○握力に関して、補強の中に手押し車・鉄棒などを加え、"手(腕)に力をつける"ことを意識させることを狙いとする。 ○投力向上のため、種目の中に投げる動作を含んだ運動を積極的に取り入れる。 ○長座では、日頃からの柔軟することを徹底させるという意識づけをおこなう。 ○定期的に保健体育科による、体力向上について検討する場を設ける。 ○授業を通し、"体力の必要性" "生涯体育"意識づけを基本とし展開していく。 ○養精中学校オリジナルな補強・柔軟を作れる様に教員同士の意見交換の場を設ける。	・合同授業研の実施(茨木小) ・教科間の交流を目指す ・研究授業の小中交流 ・オープンスクールへの参加 ・いきいきスクール(中学校教員による出前授業) ・保育所、幼稚園との交流 ・連携担当者会議 ・ブロック目標の決定 ・学校事務の共同実施
平成27年度	・前年度の振りかえりと見直し ・習熟度に応じた教材等、生徒 の実態によりそった学習(少 人数、補充学習)を引き続き 強化する。 ・体験的学習等生徒の学びあい を組織し魅力ある授業づくり の追求	○26、27 年度の体力テストの結果を比較し、1年間での成果(数字・子どもたちの意識)を確認し補強の種目・回数などの見直しを図る。 ○27 年度からは、克服だけではなく、全国平均値を維持させるために補強・授業内容・柔軟などを見直していく。 ○授業を通し、"体力の必要性" "生涯体育"理解させていく。 ○養精中学校オリジナルな補強・柔軟を作れる様に教員同士で検討している。	・前年度の振りかえりと 改善 点の追求 ・いきいきスクール、オ ープンスクールへの参 加と情報交換 ・合同授業研の実施 (中条小、養精中) ・小中で共通実施できる ものを検討する ・連携担当者会議 ・学校事務の共同実施
平成28年度	・前年度の振りかえりと見直し ・共通理解した学力向上計画に もとづき年間指導計画の改善 を図る ・生徒の実態を分析した結果を 考慮し、到達目標の設定を確 定し、学習を充実させる ・3力年計画の成果と分析	○26、27、28年度の体力テストの結果を 比較し、1年間と2年間の成果(数字・ 子どもたちの意識)を確認し補強の種 目・回数などの見直しを図る。 ○28年度からは、克服だけではなく、全 国平均値を上回れる種目(長所)をどの 様に増やせて行くかを検討していく。 ○授業を通し、"体力の必要性" "生涯体育" 定着させていく。 ○養精中学校オリジナルな補強・柔軟の完 成。	・2年目までの検証 ・合同授業研の実施 (茨木小、中条小、養精中) ・教科間の連携会議の開催を目指す ・連携担当者会議 ・ブロック連携カリキュラムの完成 ・学校事務の共同実施